

## 生活協同組合あいコープみやぎ

～石巻の水産工場に「復興の火」が灯りました～

あいコープみやぎが魚肉練り製品等で長年提携してきた高橋徳治商店は、石巻港から程近い本社工場と第二工場が津波でほぼ全壊。工場はたくさんのヘドロと瓦礫に覆われ、呆然と立ち尽くすしかない状況でした。

一度は再建を諦めかけたのですが、高橋徳治商店を慕うあいコープ組合員をはじめ全国の生協から、続々と励ましの声、支援物資、義援金が届き、多くのボランティアが駆けつけ、清掃活動が始まりました。あいコープの役職員や組合員も、継続して清掃ボランティアに取り組み

ました。震災後しばらくはライフラインが復旧せず、水は川から汲み上げ、暗くなる前に終わらせる等なかなか先が見えない中、根気のよい作業を続け、推定50トンのヘドロをすべて人力で掻き出したのです。



津波で被災した高橋徳治商店に駆けつけたあいコープの職員やボランティアの皆さん

そして10月、あいコープみやぎ他、全国の生協と共に「火入れ式」を執り行い、練り製品の製造を再開。7ヶ月前には誰も想像できなかった奇跡の復活を果たしました。

あいコープみやぎは、今後も生産者と共に「地産地消」を復興し、地域再生に取り組んでいきます。

(商品部水産担当 相澤俊介)



## みやぎ県南医療生活協同組合

～山元町での被災者支援活動をこれからも続けます～

1月から、みやぎ生協仙南ボランティアセンターや地元NPO団体の皆さんと、山元町仮設住宅集会所での支援活動を共同でおこない、医療生協として健康チェックや健康体操などを

毎月定例で4回開催しています。特に毎月第2土曜日には、兵庫県の医療生協からの支援を受け、仮設住宅での支援活動の他に、在宅被災者のみなさんへの支援として、支援物資配布や茶話会、健康チェック、脳いきいき教室など被災されたみなさんと話し合いをしながら活動を継続しています。

2月11日(土)には、震災直後、泥かきなどの支援に入った方の家(今はすっかりきれいに

りました)をお借りして、近所のみなさんと茶話会を開催しました。後期高齢者医療保険料の値上げ問題、確定申告、消費税についての意見や、今後の地域づくりへの要望などがたくさん出されました。

今後は、税金に詳しい専門家の参加を要請したり、医療生協としてできる健康づくり、地域づくりを進めるために、これからも全国の医療生協の仲間力を借りながら、被災者の皆さんの生活再建に少しでも応えていけるようにしていきたいと思えます。

(常務理事 児玉芳江)



2月11日の茶話会の様子

### 宮城労働者共済生活協同組合

～「緑の基金」東日本大震災復興事業に 1100 万円贈呈～

全労済宮城県本部では、被災された組合員の 1 日も早い生活再建を支援するべく現場調査および給付処理を最優先に対応を進めてきています。

1 月 31 日現在、受付件数 40,660 件、給付金額は約 424 億円という状況です。引き続き 1

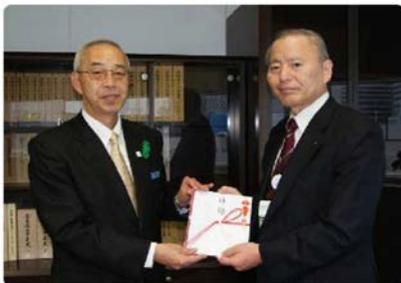
日も早い共済金の支払を目指し、調査要員体制を構築しながらの対応を進めていきます。

また全労済としては、「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」の 2011 年 5 月末の契約実績にもとづき、「公益社団法人 国土緑化推進機構」の実施する「緑の基

金」用途限定募金～東日本大震災復興事業へ寄与することを決定し、2011 年 12 月 9 日（金）に全労済会館において、1,100 万円を贈呈いたしました。

この「緑の募金」では、大きな被害を受けている被災地の復旧・復興に向けて、地域の防災林の森林整備や学校周辺の緑化等の被災地域復興事業が実施される予定です。

（専務理事 阿部田克美）



梶谷辰哉国土緑化推進機構専務理事(左)  
田原憲次郎全労済理事長(右)

#### 【公益社団法人 国土緑化推進機構】

「緑の基金」用途限定募金  
～東日本大震災復興事業

##### 概要



1. 海岸防災林等の森林整備
2. 地域周辺や学校周辺の緑化
3. 避難所や仮設住宅などの被災者向けの間伐材等による「組手仕」等の寄贈



国土緑化推進機構の活動風景

### 大学生生活協同組合東北事業連合

～震災復興テーマ「未来の大学生を応援したい」～

全国大学生協連では、震災直後の 4 月から七ヶ浜ボランティアセンターに、学生ボランティアを派遣してきました。2012 年 2 月まで 19 回にわたり派遣をすすめ、全国の大学から、のべ 700 人の学生が参加しています。

当初は瓦礫撤去作業が主な内容でしたが、現在は小中学生の学習支援ボランティアを中心にを行っています。

学習支援の傍ら、被災した小中学生から当時の状況を伺うこ

とがあります。小中学生にとっては、家族や近所の方には話せない被災した心境を、他県からの参加している大学生に話すことで、心のケアにもつながっているようです。

今後、東北事業連合では、「未来の大学生を応援する」という視点を震災復興のテーマとし、学生ボランティア活動支援や、小中高校生とふれあう取り組みを進めていく予定です。

（常務理事 峰田優一）



学習支援ボランティアの様子